

# 第114回HSE (Health care Sales Engineer) セミナー開催のご案内

令和元年。新しい時代の幕開けです。薬局業界はどう変わっていくのでしょうか。「〇〇の世代」「〇〇な考え」と時代を入れて比喻をすることがあります。薬局業界も時代を象徴するようなスタイルがあるように感じます。医薬分業が始動した昭和時代、分業ピークを迎え展開も出店もスピード化した平成時代、そして、新しい令和時代はどんな薬局が必要とされるのでしょうか。

6月のHSEセミナーでは、「時代」をテーマに講師を選定させて頂きました。地域包括ケアのモデル事例が全国で展開されています。今回は東京都大田区で作られた「街づくり地域包括ケアモデル」について取り上げてみます。ケアと聞くと医療・介護のイメージがありますが、地域で支える「共助」に目を向けると「街づくりの重要性」に気が付くことが出来ます。モデル化し全国で広がる「みま～も」モデルから地域包括ケアシステムから街づくりを考えてみます。

2講義目には、在宅医療のコストと効率化を考えてみたいと思います。全国を回り「在宅医療は効率が悪い(儲からない)」という声をよく聞きます。では、効率化するための仕組みは考えられているのでしょうか。小売業の中で、薬局ほど単価が高く、顧客数が安定しているビジネスモデルはありません。「効率が悪いから儲からない」のではなく、「質を上げるための効率化」を考える必要があります。在宅業務は「日進月歩」、努力をしないとどんどん引き離されます。

3講義目には、本年度の目玉である「医薬品医療機器等法」の改正を議論した厚生科学審議会から委員の方を講師にお呼びしました。財政・一体改革推進委員会の委員も務める講師に、薬局業界に求められる変化を問うてみたいと思います。薬局への厳しい風が吹いていますが、その矛先も時代に合わせ変化し、より本質へと向かっています。調剤報酬への批判から、大手調剤チェーン(業務効率化)、そして「調剤のみの薬局」へと。保険事業は国の政策というやるべきビジョンが示されており、そこに報酬が付くという一般企業では類のないビジネスモデルです。時代の変化に対応をするのか、時代の変化にこもりガラパゴス化をするのか。薬局業界はいま大きな岐路に立たされています。令和元年、考えを改める大きなパラダイムシフトになるかもしれません。

HSEセミナーは業界唯一の薬局経営セミナーと自負しております。引き続き皆様と一緒に「本物の薬局・薬剤師」を考えていきたいと思っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

**7月の開催日は19日・20日になります。**

【開催日】 2019年6月21日(金) 13:00~17:00

≪17:15より懇親会(会費5,000円)を企画しております≫

22日(土) 9:00~12:00

【内容】

● 6月21日(金)

「地域共生時代の今、まちづくりのために専門職ができること～みま～もの取り組み～」

澤登 久雄 氏 (牧田総合病院 地域ささえあいセンター センター長)

「対物から対人へ、薬剤師の在宅業務の効率化への挑戦」(仮)

臼井 順信 氏 (株式会社わかば 代表取締役社長)

● 6月22日(土)

トレンド分析(押さえどころ!)

駒形 和哉 氏 (株式会社Kae マネジメント 代表取締役)

「薬機法改正の要点と今後の課題」

伊藤 由希子 氏 (津田塾大学 総合政策学部 教授)

【参加費】 50,000円(消費税別)

\* 上記参加費は単月参加の費用となります。

【場所】 ・ ビジョンセンター田町 「202」

東京都港区芝5丁目3-1-19 ラウンドクロス田町 2F

<参加対象者>

医療機関、介護・福祉事業、薬局の経営者、製薬企業マーケティング担当者

医薬品卸経営相談及び経営企画担当者、医療・介護事業参入予定者など

株式会社<sup>カエ</sup>Kaeマネジメント

連絡先: TEL 03-5829-6659 FAX 03-5829-6679 [seminar@kae-management.com](mailto:seminar@kae-management.com)

主催: 株式会社Kae マネジメント 後援: 一般社団法人 日本薬局経営学会

# 第 105 回「薬局未来塾」開催のご案内

厚生労働省より出された「調剤業務のあり方」(通称:0402 通知)が、今後の薬局経営を大きく変えることになりそうだ。これは安易に「調剤助手の解禁」ととらえてはいけない。そこに薬局経営の落とし穴が隠されている。薬剤師が不足する中、調剤事務も不足していることに気が付いているだろうか。全体の有効求人倍率こそ「1.63」とバブル期を凌ぐ数値だが、一般事務に限ると「0.38」と人材があふれていることがわかる。ではなぜ調剤事務員が不足をしているのか。その答えは単純明快な「給料の低さ」である。医療事務(受付)と聞くと、かつては華やかなイメージであったのが、いまや低所得の代名詞と変わっている。もちろん薬剤師の新卒状況も大きく変わっている。かつては新卒時「600 万」と言われた初年棒だが、それこそ薬剤師バブルの象徴である。今後、奨学金返済等の給与を求める学生は地方に行かざるを得ない時代が来る。薬学部と企業では認識の違いも多くある。採用が上手くいかないという話をよく聞かすが、その多くは自社の内部的な問題にあることが多い。学生にとって「入りたい企業」と思ってもらうためには演出が必要である。時代は間違いなく変化していく中、ターゲットも手法も変化していることに気が付いて貰いたい。薬剤師がターニングポイントを迎える時だからこそ、利用しない手はない。

日時： 6月22日(土) 午後12時15分から14時  
(昼食を取りながらのランチ形式です。)

会場： ビジョンセンター田町 「202」  
東京都港区芝5丁目3-1-19 ラウンドクロス田町 2F

会費： **3,000 円** (\*会費は軽食代と会場費となっております)。  
※参加費は当日会場にてお支払いをお願いいたします。

テーマ： 調剤助手の解禁から薬剤師採用のチャンス化を考える

- ・調剤助手の活用と採用
- ・薬剤師の給料相場と転職事情
- ・ダメな企業の採用の仕方と採用に強い企業のやり方
- ・採用が出来ない企業の盲点“営業”
- ・地方企業こそ少数精鋭採用のチャンスがある

駒形 公大 氏 (株式会社 Kae マネジメント 専務取締役)

※HSE セミナーに参加していない方でも参加歓迎いたします。

10 年先を読むキーポイント

- ・「患者のための薬局ビジョン」とは、現状は患者のためになっていない反省なのか?
- ・2017 年度の「骨太の方針」にある「患者本位の医薬分業に向けて」とは何を意味する
- ・増えすぎる医薬品の問題から多過ぎる薬局の問題に変わった
- ・「薬中心の業務」から「患者中心の業務」への転換は調剤料を直撃するのか
- ・薬価の毎年改定は業界全体を揺るがす変化となる
- ・2025 年には全ての薬局が「かかりつけ薬局」になっている
- ・「かかりつけ薬剤師指導料」が薬局経営の柱になる
- ・「健康サポート薬局」に込められた国の期待とは何か
- ・2016 年度は“減収減益”に陥った潮目の年
- ・厚生労働省を動かす「閣議決定」に将来が見えてくる
- ・早すぎる ICT 化が医療の仕組みを変える
- ・超高齢者社会は「通院が困難なもの」と「認知症」への対応に注目
- ・地域包括ケアは在宅による多職種連携がカギを握る
- ・ドラッグストアの処方せん獲得が激化する
- ・M&A がどこまで寡占化を進めるのか

# 第114回セミナー参加申込書

FAX : 03-5829-6679

E-mail : [seminar@kae-management.com](mailto:seminar@kae-management.com)

フリガナ	
氏名	
会社名	
部署名	
住所	〒
携帯電話番号	
メールアドレス	
備考	

※ 単月の方に後日御請求書を送付させていただきます。

**次回、開催日は2019年7月19、20日になります。**

## 懇親会のご出欠

懇親会のキャンセルにはキャンセル費をご請求させていただきます。	
御出席	御欠席

## 薬局未来塾のご出欠

御出席	御欠席
-----	-----

### ■会場

\* 2019年は4~6月は下記会場になります

### ビジョンセンター田町「202」

東京都港区芝5-31-19  
ラウンドクロス田町2階 202号室

JR田町駅より徒歩3分  
都営三田線・浅草線田町駅A3出口徒歩2分



※未来塾単体のお申し込みの方は、「未来塾のみ」と備考に記載くださいませ。